

貯法：室温保存

有効期間：3年

	20mg	40mg	80mg
承認番号	30200AMX00682	30200AMX00683	30200AMX00684
販売開始	2003年6月	2003年6月	2003年6月

トロンボキサン合成酵素阻害剤

処方箋医薬品^{注)}

日本薬局方 オザグレルナトリウム注射液

オザグレルNa点滴静注20mgシリンジ [NIG]

オザグレルNa点滴静注40mgシリンジ [NIG]

オザグレルNa点滴静注80mgシリンジ [NIG]

Ozagrel Na I.V. Infusion Syringe

注) 注意 - 医師等の処方箋により使用すること

2. 禁忌（次の患者には投与しないこと）

- 2.1 出血している患者：出血性脳梗塞、硬膜外出血、脳内出血又は原発性脳室内出血を合併している患者〔出血を助長する可能性がある。〕[8、9.1.2、11.1.1 参照]
- 2.2 重篤な意識障害を伴う大梗塞の患者、脳塞栓症の患者〔出血性脳梗塞が発現しやすい。〕
- 2.3 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

3. 組成・性状

3.1 組成

販売名	オザグレルNa 点滴静注20mg シリンジ [NIG]	オザグレルNa 点滴静注40mg シリンジ [NIG]	オザグレルNa 点滴静注80mg シリンジ [NIG]
有効成分	1シリンジ (0.5mL) 中： オザグレルナトリウム 20mg	1シリンジ (1mL) 中： オザグレルナトリウム 40mg	1シリンジ (2mL) 中： オザグレルナトリウム 80mg
添加剤	pH調節剤		

3.2 製剤の性状

販売名	オザグレルNa 点滴静注20mg シリンジ [NIG]	オザグレルNa 点滴静注40mg シリンジ [NIG]	オザグレルNa 点滴静注80mg シリンジ [NIG]
色・性状	無色澄明の注射液		
pH	7.7～8.7*		
浸透圧比	0.2～0.3*（生理食塩液に対する比）		

* 本品1mLに水3mLを加えた液

4. 効能又は効果

- クモ膜下出血術後の脳血管攣縮およびこれに伴う脳虚血症状の改善
- 脳血栓症（急性期）に伴う運動障害の改善

6. 用法及び用量

〈クモ膜下出血術後の脳血管攣縮およびこれに伴う脳虚血症状の改善〉

通常成人に、オザグレルナトリウムとして1日量80mgを適当量の電解質液または糖液で希釈し、24時間かけて静脈内に持続投与する。投与はクモ膜下出血術後早期に開始し、2週間持続投与することが望ましい。なお、年齢、症状により適宜増減する。

〈脳血栓症（急性期）に伴う運動障害の改善〉

通常成人に、オザグレルナトリウムとして1回量80mgを適当量の電解質液または糖液で希釈し、2時間かけて1日朝夕2回の持続静注を約2週間行う。なお、年齢、症状により適宜増減する。

8. 重要な基本的注意

本剤の投与により出血性脳梗塞、硬膜外出血、脳内出血を助長する可能性があるため、救急処置のとれる準備を行い投与すること。また、臨床症状及びコンピュータ断層撮影による観察を十分にを行い、出血が認められた場合には直ちに投与を中止し適切な処置を行うこと。[2.1、11.1.1 参照]

9. 特定の背景を有する患者に関する注意

9.1 合併症・既往歴等のある患者

9.1.1 脳塞栓症のおそれのある患者：心房細動、心筋梗塞、心臓弁膜疾患、感染性心内膜炎及び瞬時完成型の神経症状を呈する患者
脳塞栓症の患者は出血性脳梗塞が発現しやすいため、治療上やむを得ないと判断される場合を除き、投与しないこと。

9.1.2 出血している患者：消化管出血、皮下出血等
出血を助長する可能性がある。[2.1、11.1.1 参照]

9.1.3 出血の可能性のある患者：脳出血の既往歴のある患者、重症高血圧患者、重症糖尿病患者、血小板の減少している患者等
出血を助長する可能性がある。

9.5 妊婦

妊婦又は妊娠している可能性のある女性には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合のみ投与すること。

9.6 授乳婦

治療上の有益性及び母乳栄養の有益性を考慮し、授乳の継続又は中止を検討すること。

9.7 小児等

小児等を対象とした臨床試験は実施していない。

9.8 高齢者

一般に生理機能が低下している。

10. 相互作用

10.2 併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
抗血小板剤 チクロピジン アスピリン等 血栓溶解剤 ウロキナーゼ アルテプラザーゼ等 抗凝血剤 ヘパリン ワルファリン アルガトロバン等	これらの薬剤と併用することにより出血傾向の増強をきたすおそれがある。 観察を十分に行い、減量するなど用量を調節すること。	本剤は血小板凝集能を抑制するため、類似の作用を持つ薬剤を併用することにより作用を増強する可能性がある。

11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

11.1 重大な副作用

11.1.1 出血

〈クモ膜下出血術後の脳血管攣縮およびこれに伴う脳虚血症状の改善〉

出血性脳梗塞・硬膜外血腫・脳内出血（1.9%）、消化管出血（0.8%）、皮下出血（0.8%）、血尿（頻度不明）等があらわれることがある。本剤は血小板凝集能を抑制する。[2.1、8、9.1.2 参照]

〈脳血栓症（急性期）に伴う運動障害の改善〉

出血性脳梗塞・硬膜外血腫・脳内出血（0.3%）、消化管出血（頻度不明）、皮下出血（0.3%）、血尿（頻度不明）等があらわれることがある。血小板凝集能を抑制する。[2.1、8、9.1.2 参照]

11.1.2 ショック、アナフィラキシー（いずれも頻度不明）

血圧低下、呼吸困難、喉頭浮腫、冷感等があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

11.1.3 肝機能障害、黄疸（いずれも頻度不明）

著しいAST・ALTの上昇等を伴う重症な肝機能障害、黄疸があらわれることがある。

11.1.4 血小板減少（頻度不明）

11.1.5 白血球減少、顆粒球減少（いずれも頻度不明）

発症時には発熱や悪寒等がみられることが多いので、これらの症状があらわれた時は本症を疑い血液検査を行うこと。

11.1.6 腎機能障害（頻度不明）

重篤な腎機能障害（急性腎障害等）があらわれることがある。腎機能障害時には血小板減少を伴うことが多い。

11.2 その他の副作用

	0.1%~3%未満	頻度不明
過敏症	発疹、蕁麻疹、紅斑	喘息（様）発作、痒痒
循環器	上室性期外収縮、血圧下降	
血液	貧血	
肝臓		AST・ALT、LDH、アルカリホスファターゼ、ビリルビンの上昇等
腎臓		BUN、クレアチニン上昇
消化器	嘔気、嘔吐、下痢、食欲不振、膨満感	
その他	発熱、頭痛、注射部の発赤・腫脹・疼痛	CK上昇、胸内苦悶感、ほてり、悪寒・戦慄、関節炎、CRP上昇

14. 適用上の注意

14.1 薬剤調製時の注意

カルシウムを含む輸液で希釈すると白濁することがあるので、カルシウムを含む輸液（リンゲル液等）を希釈に用いるときは、本剤80mgあたり300mL以上の輸液で使用する。

14.2 薬剤投与時の注意

14.2.1 ゴム栓は回しながら引き抜くこと。

14.2.2 ゴム栓を外したら直ちに注射針を装着すること。

14.2.3 ゴム栓取り外しの際、ルーア一部（針装着部）に指が触れないようにすること。誤って指が触れてしまった場合は使用しないこと。

14.3 薬剤投与後の注意

本剤の使用は1回限りとし、開封後は速やかに使用し、使用後は廃棄すること。

18. 薬効薬理

18.1 作用機序

アラキドン酸カスケード中のトロンボキサン₂（TXA₂）合成酵素を選択的に阻害してTXA₂の産生を抑制し、TXA₂による血小板凝集能を抑制すると共に、プロスタサイクリンの産生を促進して、両者のバランス異常を改善する。また、脳血管攣縮や脳血流量低下の抑制作用も認められている¹⁾。

19. 有効成分に関する理化学的知見

一般的名称：オザグレルナトリウム（Ozagrel Sodium）

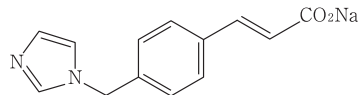
化学名：Monosodium(2*E*)-3-[4-(1*H*-imidazol-1-ylmethyl)phenyl]prop-2-enoate

分子式：C₁₃H₁₁N₂NaO₂

分子量：250.23

性状：白色の結晶又は結晶性の粉末である。水に溶けやすく、メタノールにやや溶けやすく、エタノール（99.5）にはほとんど溶けない。

化学構造式：



20. 取扱い上の注意

20.1 外箱開封後は遮光して保存すること。

20.2 ピロー包装開封前に破れ・はがれ等があった場合は使用しないこと。

20.3 ピロー包装から取り出したとき、薬液の漏れ等が無いことを確認し、万一、異常が認められた場合には使用しないこと。

22. 包装

〈オザグレルNa点滴静注20mgシリンジ「NIG」〉

0.5mL×10シリンジ

〈オザグレルNa点滴静注40mgシリンジ「NIG」〉

1mL×10シリンジ

〈オザグレルNa点滴静注80mgシリンジ「NIG」〉

2mL×10シリンジ

23. 主要文献

1) 第十八改正日本薬局方解説書。廣川書店；2021：C-1234-C-1238

24. 文献請求先及び問い合わせ先

日医工株式会社 お客様サポートセンター

〒930-8583 富山市総曲輪1丁目6番21

TEL (0120) 517-215

FAX (076) 442-8948

26. 製造販売業者等

26.1 製造販売元

 **日医工岐阜工場株式会社**
NICH-IKO 富山市総曲輪1丁目6番21

26.2 発売元

 **日医工株式会社**
NICH-IKO 富山市総曲輪1丁目6番21

26.3 販売

武田薬品工業株式会社
大阪府中央区道修町四丁目1番1号